

千葉県における入院小児の分布

武市 雅代 宮川 喜代 西川 陽子
兼松百合子 吉武香代子

The distribution of hospitalized children in Chiba Prefecture

Masayo TAKEICHI, Kiyoko MIYAKAWA, Yoko NISHIKAWA,
Yuriko KANEMATSU, Kayoko YOSHITAKE

要旨 望ましい小児の入院環境を見出す手がかりとして我々はまず現状を知る必要があると考え、千葉県において入院小児の分布を知ることを目的に本調査を実施した。

小児が入院していると思われる211施設を対象に質問紙を送り、123施設より回答を得た。入院小児総数は1,292人であった。

回答のあった病院を患者総数別に区分してみると、患者総数100人未満の病院は82病院、そのうち小児が入院していたのは44病院であり、小児数は182人であった。患者総数100～299人の病院では、回答29病院中、24病院、364人、患者総数300人以上の病院では、回答12病院中、10病院、746人の小児が入院していた。

これらの小児が、どのような診療科に所属し、どのような種類の病棟に入院しているかを分析した。

Key words: 入院環境
入院小児
分布

I. はじめに

小児の入院環境は、疾病の治療の場としてだけでなく、緊張を和らげ、心身の発達を助長するような生活の場として考えられなければならない。

小児にとってどのような入院環境が望ましいのかを見出す手がかりとして、小児の入院環境の現状を知る必要があると考える。今回の調査はその基礎的資料を集める第1段階として、小児がどのような規模の病院に、あるいはどのような種類の病棟に入院しているかを知るために、千葉県において実施したものである。

II. 調査対象および調査方法

対象；千葉県内の全病院 266施設のうち、小児科、外科、整形外科、耳鼻科、放射線科のいずれ

かを標ぼうしている211施設。

方法；ある一日の入院患者数、小児数（健康新生児を除く15歳以下の小児）小児の入院している病棟名、小児の所属する診療科などについて質問紙を用いて郵送調査によって回答を求めた。

期間；昭和54年10月中旬には、小児科を標ぼうしている病院、12月初旬には外科、整形外科、耳鼻科、放射線科を標ぼうしている病院を調査した。小児科を標ぼうしている病院だけでなく、外科、整形外科、耳鼻科、放射線科を標ぼうしている病院にも小児が入院していると思われたため追加したものである。

III. 調査結果

1. 調査対象と回答率

表1に調査対象と回答率を示した。定床数100床未満の病院では、回答率は48.6%、100～299床の病院では、72.7%、300床以上の病院では95.2

千葉大学看護学部小児看護学講座

Department of Pediatric Nursing, School of Nursing, Chiba University

%と大きな差があった。

以下、資料の分析は、病院要覧を参考とした定床数が、実際の定床数と違いがあることがわかったので、回答のあった病院を患者総数に基いて区分し、患者総数 100 人未満の病院、100～299 人の病院、300 人以上の病院に分け、行った。

2. 小児が入院していた病院の規模および小児数について

小児が入院していた病院を表 2 に、入院患者総数と小児総数を表 3 に示した。患者総数 100 人未

表 1. 調査対象と回答率

定 床 数	発送数	回答数	回答率
100床 未 満	146	71	48.6%
100～299床	44	32	72.7%
300床 以 上	21	20	95.2%
計	211	123	58.3%

表 2. 小児が入院していた病院数

病院の規模	回答の あった 病院数	小児が入院 していた 病 院 数	(%)
100人 未 満	82	44	(53.7)
100～299人	29	24	(82.8)
300人 以 上	12	10	(83.3)
計	123	78	(63.4)

表 3. 入院患者総数と小児総数

病院の規模	患者総数	小児総数	(%)
100人 未 満	3,410	182	(5.3)
100～299人	5,256	364	(6.9)
300人 以 上	5,482	746	(13.6)
計	14,148	1,292	(9.1)

表 4. 入 院 小 児 数 別 病 院 の 数

病院の規模 小児数	100人未満 (%)	100～299人 (%)	300人以上 (%)
0	38	5	2
1～9人	42 (51.2)	14 (48.3)	0
10～19人	1	3	2
20～29人	0	3	1
30人以上	1	4	7 (58.3)
計	82	29	12

満の病院では、回答82病院のうち44病院に小児が入院しており、小児総数は182人であった。100～299人の病院では、回答29病院中、24病院に364人の小児が、300人以上の病院では、回答12病院中、10病院に746人の小児が入院していた。57.7% (746人)の小児が患者総数300人以上の病院に、28.2% (364人)の小児が100～299人の病院に、14.1% (182人)の小児が100人未満の病院に入院していた。

表 4 は、回答のあった全病院を入院小児の数別に見たものである。患者総数 100 人未満の病院では、小児数 1～9 人の病院が最も多く、42 病院 (51.2%)、100～299 人の病院では、同じく 14 病院 (48.3%) であった。患者総数 300 人以上の病院では、小児数 30 人以上の病院が最も多く 7 病院 (58.3%) であった。

表 5 は、小児が入院していた病院を、入院患者数に占める小児数の割合別にみたものである。患者総数 100 人未満の病院では、小児が入院していた 44 病院のうち、36 病院 (81.8%) が小児数 10% 未満であった。患者総数 100～299 人の病院では、24 病院中 18 病院 (75%) が、300 人以上の病院では、10 病院中 5 病院 (50%) が小児数 10% 未満であった。患者総数 100 人未満の病院の中に、小児数 90% 以上の肢体不自由児施設が 1 施設あった。小児が入院していた 78 病院全体の 75.6% にあたる 59 病院は、小児数 10% 未満であった。

3. 小児の所属する診療科について

入院小児が所属していた診療科を図 1 に示した。全小児の 53.9% が小児科に、9.4% が整形外科に、8.3% が外科に所属し入院していた。患者総数 100 人未満の病院では、小児科の小児は 7.1%、整形

外科20.3%，外科20.3%であり，36.8%の小児は
 肢体不自由児であった。重複障害のため診療科が
 1つではないため「肢体」とした。重症心身障害
 児，筋ジストロフィー児も同様に「重心」「筋ジ
 ス」とし，一般診療科と区別した。患者総数 100
 ～ 299 人の病院では，小児科の小児は66.5%，整

形外科12.4%外科10.2%と続く。患者総数 300 人
 以上の病院では，小児科の小児は59.1%，重心
 10.1%，筋ジス8.0%となっていた。

4. 小児が入院していた病棟の種類

小児がどのような種類の病棟に入院していたか
 をみたのが表 6 である。

表 5. 入院患者数に占める小児の割合別病院数

病院の規模 小児の割合	100人未満 (%)	100～299人 (%)	300人以上 (%)
1～10%未満	36 (81.8)	18 (75)	5 (50)
10～20	6	3	4
20～30	0	2	0
30～40	1	1	0
40～50	0	0	0
50～60	0	0	1
60～70	0	0	0
70～80	0	0	0
80～90	0	0	0
90%以上	1	0	0
計	44	24	10

小児が入院していた全病院

小児科 53.9% (696)	整形外科 9.4% (121)	外科 8.3% (107)	重心 5.8% (75)	肢体 5.2% (67)	筋ジス 4.6% (60)	精神 4.2%	その他
-----------------	-----------------------	---------------------	--------------------	--------------------	---------------------	------------	-----

不明

100人未満の病院

肢体 36.8% (67)	整形外科 20.3% (37)	外科 20.3% (37)	小児科 7.1%	産婦人科 3.3%	その他	不明 10.1% (18)
---------------	--------------------	------------------	-------------	--------------	-----	---------------------

100～299人の病院

小児科 66.5% (242)	整形外科 12.4% (45)	外科 10.2% (37)	精神科 3.8%	その他
-----------------	-----------------------	---------------------	-------------	-----

眼科 不明

300人以上の病院

小児科 59.1% (441)	重心 10.1% (75)	筋ジス 8.0% (60)	精神科 5.4%	整形外科 5.2%	外科 4.4%	その他
-----------------	---------------------	---------------------	-------------	--------------	------------	-----

図 1. 小児が所属する診療科とその小児数

() 内は小児数

患者総数 100 人未満の病院では、小児が半数以上を占める病棟（以下小児中心の病棟とす）は 3 病棟であり、小児数は 67 人であった。これらの小児は、全員が先にも述べた肢体不自由児施設の小児である。その他の小児はすべて成人が半数以上を占める病棟（以下成人中心の病棟とす）に入院していた。患者総数 100～299 人の病院では、55.2 % の小児が、300 人以上の病院では、79.8 % の小児が、小児中心の病棟に入院していた。患者総数 300 人以上の病院に含まれた長期療養施設 2 施設の病棟は「重心」「筋ジス」「腎ネフ」「喘息」とし一般の病棟と区別した。

5. 一病棟の小児数からみた入院小児の分布

小児中心の病棟ばかりでなく、成人中心のさまざまな病棟にも小児は入院していた。ある小児が、何人の小児の集まりの中にいたのか（一病棟の小児数）に視点をおき、病棟数および小児数をみたのが表 7 である。

小児が一人で入院していた病棟は、患者総数 100

人未満の病院では 55 病棟のうち 24 病棟（43.6 %）、100～299 人の病院では 51 病棟のうち 12 病棟（23.5 %）、300 人以上の病院では、57 病棟のうち 14 病棟（24.6 %）であった。小児が入院していた全病棟の 30.7 % は小児数 1 人の病棟であった。

一病棟の小児数 4 人以下の病棟は、患者総数 100 人未満の病院では 48 病棟（87.3 %）、100～299 人の病院では 31 病棟（60.8 %）、300 人以上の病院では、30 病棟（52.6 %）であった。全病棟の 66.9 % が、小児数 1～4 人以下であった。

IV. 考 察

1. 病院の規模と入院小児数の関係

患者総数 300 人以上の病院に、入院小児は 57.7 %（746 人）と多く、また患者総数に対する小児総数の割合も 13.6 %（表 3）と高かったが、その理由として、これらの病院は、多くは総合病院であり、多岐にわたる診療科を持っており、高度の専門的な医療が期待された結果と考えられる。ただし、この 300 人以上の病院の中に、長期療養施設

表 6. 小児が入院していた病棟の種類別病棟数および小児数

病 棟	病院の規模		100人未満 (%)		100～299人 (%)		300人以上 (%)	
	病 棟		病棟数	小児数	病棟数	小児数	病棟数	小児数
小 児 中 心 の 病 棟	小 児 病 棟				2*	55	3*	101
	小 児 科 病 棟				4*	84	2*	70
	新生児, 未熟児				2*	34		
	肢 体	3*		67 (36.8)				
	重 心						6	177
	筋 ジ ス						1	26
	腎 ネ フ						3*	100
	喘 息						1*	45
	混 合				1	14	2	37
	精 神				1*	14	1	39
	小 計		3	67 (36.8)	10	201 (55.2)	19	595 (79.8)
成 人 中 心 の 病 棟	混 合		39	91 (50)	28	126	19	66
	整形外科		3	4	5	22	3	11
	外 科		2	4	3	8	3	18
	内 科		6	14	4	4	6	7
	筋 ジ ス						2	34
	そ の 他		2	2	1	3	5	15
	合 計		55	182	51	364	57	746

* 印は小児のみの病棟

2施設が含まれており、患者総数300人以上の病院の小児全体の約半数(387人)の小児は、その特殊な機能を持つ施設を求めて入院していた小児であった。

患者総数100～299人の病院には、28.2%(364人)の小児が入院しており、患者総数に対する小児総数の割合は6.9%(表3)であった。この規模の病院は、24施設と比較的数も多く、居住地に近い医療施設を求めた結果と推測される。昭和52年千葉県医療実態調査¹⁾によると、千葉県内20地区の自区内受診率は、診療所を含めた施設を対象にした数値であるが、平均77%である。

患者総数100人未満の病院には入院小児は14.1%(182人)と少なく患者総数に対する小児総数の割合も5.3%と低く、44施設と多数の病院に少人数で入院していた。整形外科、外科に所属している小児が多く、それぞれの診療科の専門的な医療を期待したものと思われる。

2. 病棟の種類と入院小児数について

小児のみの病棟には、570人(44.1%)の小児が入院していた。このうち特殊な施設の「肢体」「腎ネフ」「喘息」の小児を除くと、一般の小児科病棟、小児病棟に入院している小児は358人(27.7%)と3割に満たなかった。

小児中心の病棟には、823人(63.7%)の小児が入院していた。これらの小児が入院している病棟数をみると、大規模な病院に小児中心の病棟が多い。これは、これらの病院に入院小児数が多いことが、小児中心の病棟が成立する一つの条件で

あると考えられる。

成人中心の病棟に入院していた小児総数は429人(33.2%)であり、診療科として、外科、整形外科の小児が多い。前述したように、外科、整形外科を標ぼうしている小規模な病院に入院している小児から、大規模な病院で診療単位病棟、あるいは診療系統別病棟(外科系の病棟など)に入院している小児などさまざまな場合がみられたがいずれも成人中心の病棟であり、子どものための配慮(物理的環境、食事の準備など)がされにくいのではないと思われる。

3. 一病棟の小児数および一病院内での小児の分布について

小児が少人数で入院している病棟が多いことは前にも述べたが、一つの病院でそれらの病棟がどのように存在していたか(一病院の中の小児の分布)をみてみると、患者総数300人以上の病院の中には、「10病棟に85人」「7病棟に18人」と小児が一病院内で多数の病棟に分かれて入院していた病院が多くみられた。

小規模な病院で、小児の数のまとまりがないため、小児のみの病棟が少ないのは当然だが、大規模な病院において小児が分散していた。これは、診療科の独立性が強く、診療単位病棟の考え方が根づよいこと、小児病棟の考え方²⁾がうすいことなどが理由として考えられる。

V. 総括

千葉県内の病院の入院小児数に関しては、昭和52年、千葉県医療実態調査の受診状況、年齢区分、

表 7. 一病棟の小児の数とのべ小児数

病院の規模 一病棟の 小児の数	100人未満		100～299人		300人以上		計	
	病棟数(%)	のべ小児数(%)	病棟数(%)	のべ小児数(%)	病棟数(%)	のべ小児数(%)	病棟数(%)	のべ小児数
1	24(43.6)	24	12(23.5)	12(3.3)	14(24.6)	14	50(30.7)	50
2	12	24	8	16	7	14		
3	6	18	5	15	7	21		
4	6	24	6	24	2	8	109(66.9)	214
5～9	4	25	7	45	3	20		
10～19	1	14	8	115	7	111	54(33.1)	748
20～	2	53(29.1)	5(9.8)	137(37.6)	17(29.8)	558(74.8)		
計	55	182	51	364	57	746	163	1,292

診療区分などからも確められるが、小児が、どのような診療科で、あるいはどのような種類の病棟に入院しているかなどの資料はなく、本調査で以下のことが明らかとなった。

1. 本調査で回答を得た全小児1,292人のうち、57.7% (746人) の小児は、患者総数300人以上の病院に、28.2% (364人) の小児は、患者総数100～299人の病院に、14.1% (182人) の小児は患者総数100人未満の病院に入院していた。

2. 小児が入院していた全病院の75.6%は小児数10%未満であった。病院の規模別にみると大規模な病院に小児数の割合が高かった。

3. 小児の所属する診療科では「小児科」の小児が最も多く (53.9%)、つづいて整形外科 (9.4%)、外科 (8.3%)、であった。この傾向は、患者総数100～299人の病院で著明であり、患者総数300人以上の病院では特殊施設を除くと同様の結果であるが、患者総数100人未満の病院では、整形外科、外科の診療科に所属している小児が多かった。

4. 小児中心の病棟は患者総数が多い病院に多かった。患者総数100人未満の病院では、特殊施

設の「肢体」を除くとすべて成人中心の病棟に小児は入院していた。

5. 小児が少人数で入院している病棟が多く、一病棟の小児数が一人である病棟は、50病棟 (30.7%) であった。

本調査では、小児の入院期間、病棟内での小児の分布は明らかではなく次回の課題としたい。今後、本調査をもとに、いろいろな種類の病棟に入院している小児の日常生活と看護の内容、および人的、物理的環境を実地調査し、検討していきたい。また千葉県における入院小児の分布を全国の傾向と比較し、検討したいと考えている。

文 献

- 1) 千葉県医師会：年齢別にみた疾病構造の実態，千葉県医療実態調査第Ⅳ部，12—17，昭和52年
千葉県医師会：若年層における医療とのかかわりあい行動の実態とその問題点，千葉県医療実態調査第Ⅴ部，1—116，昭和52年
- 2) 今村栄一：小児病棟と設備，病院設備，20(3)，：43—46，1978